

長万部アグリ株式会社（長万部町）

隣地に設置されている太陽光パネルを電力の供給源とするとともに「廃棄物」であるホタテの貝殻を培地とした、ミニトマトの栽培を実施しています。
URL：<https://www.oshamambe-agri.co.jp>

ゼロカーボンの取組

○地方創生事業としてスタート

2015年に東京理科大学北海道長万部キャンパスで開催された「長万部地方創生サミット」において「長万部町と東京理科大学との地方創生に係る包括連携協定」が締結されました。これに基づき、「再生可能エネルギーを活用した先進的アグリビジネス」をテーマとした産官学連携の地方創生事業がスタートし、長万部アグリ株式会社はその事業の一環として誕生しました。



【地域資源を活用した取組の推進】

①太陽光パネルを電源として利用

隣接の太陽光パネルの電力を蓄電池で貯めて、ハウス電源として活用しており、年間約14,000kwh（ハウスでの消費電力量の約20%）を賄っています。

②ホタテの貝殻を活用

「廃棄物」として捨てられていたホタテの貝殻を町内の工場で作成し、珊瑚の欠片とブレンドして、フィルタ活用の循環型水耕栽培の培地として利用しており、循環型社会の推進に貢献しています。



③温泉熱を加温に利用

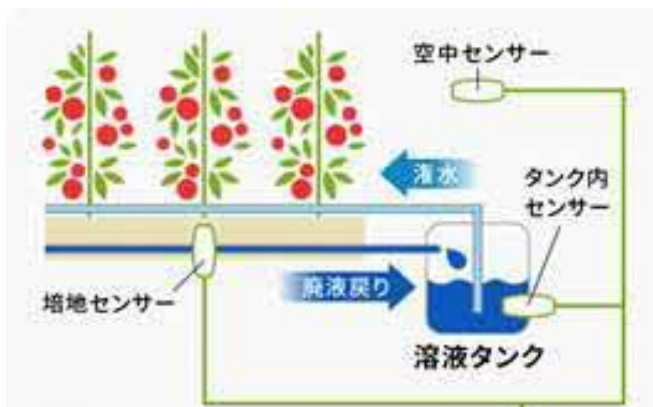
長万部町の温泉熱を温度ロスが少ない高機能送湯管で輸送し、ハウス加温に活用しています。（現在は、源泉の設備故障のため休止中）

特に力を入れていること 工夫している点

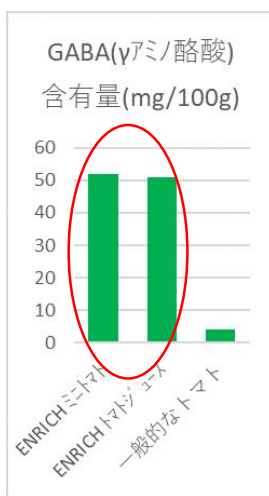
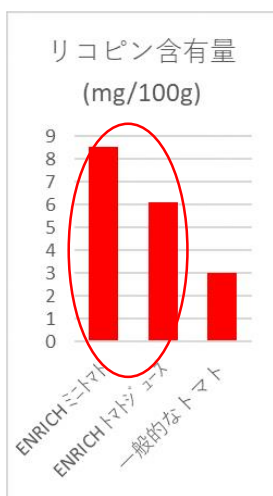
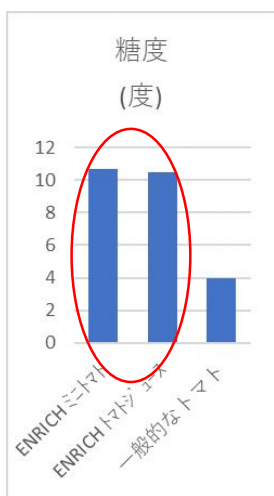
○長万部アグリ（株）農法の特徴

トマト育成に必要な水分は、循環型で水使用量を削減し、コスト・環境にも優しいシステムです。

また、廃棄物であるホタテの貝殻を再利用したアルカリ性の強い培地は、根由来の病気を99.9%ブロックするとともに生体を鍛えて強く健康となり、甘さと栄養を高めています。(特許出願中農法)



このように、植物本来の力を最大限発揮させるように工夫された長万部アグリ（株）のミニトマトは、人々を豊かにするトマト＝「エンリッチ」と名付けられ、2020年2月（一財）「格付けジャパン研究機構」による試験の結果、美味しさ、健康機能性、価格特性の総合評価で『データプレミアムNo1格付け認証』を受けました。



ENRICH TOMATO by Oshamanbe Agri



< (一財) 日本食品分析センター調べ >

今後の目標・取組

町営温泉の源泉が復旧次第、高保温性温泉送水管を通じてその熱利用による冬場の暖房費用削減につなげてまいります。また、将来的には「データセンター」を誘致することができれば、その排熱利用で冬場の暖房費用を大幅に削減することができると思っています。